

埋蔵文化財調査室ニュースレター

特集 遺跡景観

雪解けの4月。キャンパス内のメイン・ストリートから脇道へ、樹木の陰に、一歩足をふみ入れたそこそこに、目新しい標識が設置されているのに気付かれたでしょうか。キャンパス・エコミュージアムのサテライトを示す解説パネルです。これまでに北大埋蔵文化財調査室が実施した構内遺跡の調査地点の代表的なものを選定しました。建設工事に先立って遺跡の発掘調査が実施された場合、調査終了後に遺跡は破壊されてしまいます。これを「記録保存」と言います。遺跡の概要は明らかになりますが、発掘された部分はもはや存在しません。しかし、遺跡全体の広がり、当時の人たちの行動範囲は、さらにその外側にまで広がっており、そこには往時を偲ばせる地形や地層が残っている場合があります。あるいは樹種は代わってしまっても、たとえば低湿な地形環境のところでは、そこを好む近縁の木々が繁茂しているかもしれません。遺跡景観とは、復元住居が立ち並ぶ、過ぎ去った時の一断面を再現した遺跡の景観ではありません。悠久の時の流れの累積に思いを馳せることができるような「遺跡」のある景観のことで



サテライトNo.8:ゲストハウス地点(現在の「ファカルティハウスエンレイソウ」)に設置された人類遺跡トレイルの解説パネル。写真右上の林はサクシュコトニ川(現 大野池)の河畔林。これらは北海道大学教育IP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」の一環としてキャンパス内15か所(サテライトNo.2~No.16)に設置されたものでもあります。発掘調査の成果、遺跡の立地などの情報を提供しています。

人類遺跡トレイル



サテライトNo.1 遺跡保存庭園地点
(川の合流点に展開する集落)

明治～昭和にかけての調査で、住居址と思われるくぼみが多数確認され、現在でも地表から観察できる。



サテライトNo.2 サークル会館地点
(土師器の系統を引く弥文土器)

東北地方の土師器の系統を引く弥文前期の土器(8世紀頃)が出土した。



サテライトNo.3 恵迪寮地点
(剣書土器)

「夫」の字が刻まれた東北地方で制作された坏が出土した。埋没していたセロンベツ川には、幅12mにわたって定置漁撈施設として利用された木柱列が残されていた。



サテライトNo.4 農学部附属植物園地点
(集落遺跡と湧泉地)

セロンベツ川の源流となっていた湧泉地の周囲に、集落が展開していたと考えられる。現在でも地表面でもくぼみとして観察できる竪穴住居址が3基ある。



サテライトNo.5 ポブラ並木東地区地点
(ガラス玉と滑石製平玉)

統縄文後半期の土坑墓7基と屋外が址が見つかった。第1号墓からはガラス玉、第4号・第5号墓からは滑石製の平玉が出土した。



サテライトNo.6 学術交流会館地点
(北大式土器と小壜穴)

統縄文終末の北大田式の深鉢形土器(7世紀頃)が出土した。小壜穴は住居址の可能性が考えられる。



サテライトNo.7 学生部体育館地点
(後北C2-D式土器)

統縄文後半期の後北C2-D式土器が主として出土した。屋外が址からは、石器、動物骨の小片や植物の種子などが発見された。



サテライトNo.8 ゲストハウス地点
(2000年前のキャンプ地)

統縄文前半期(約2000年前)の屋外が址からは、土器や石器、動物骨、植物遺存体などが集中して出土した。



モデルコースは「弥文のトレイル」
4→15 総合博物館一理文
調査室→1→2→3→10

● サテライト
(案内板設置ポイント) ● コアミュージアム

エコミュージアムとは、特定の地域内(テリトリー)に「サテライト」と呼ばれる「自然遺産」・「歴史遺産」・「産業遺産」の地域の自然環境・歴史・生活文化を学習・理解し、時代に引き継ぐことを目的とする活動とその対象と組織。本計画は「バスマスタープラン 2006のアクションプランの一つ」で整備されたものです。ガイダンス機能を備えたコアミュージアムとサテライトを連携させた各サテライトを探索・観察・学習します。

モデルコース1 続縄文のトレイル
6→13→総合博物館→埋文
調査室→8→5→7→12→11



サクシュコト二川とセロンベ川
サクシュコト二川の周面で見えられた埋没河川

に散在する自然・遺跡・建造物・民俗行事などを、サテ「主」「民俗遺産」として認識・研究・整備・保護して、そ地域生活・地域文化を活性化し、よりよい状態で次世代の継承の総体です。この「人類遺跡トレイル」は、キャンあるキャン、バス・エコミュージアム構想の一環としてミュージアムを中継地点として、情報的にネットワーク



サテライトNo.9 桑園国際交流会館地点
(農場の遺跡)
農地改良のためのプラウ跡(表土の切開・反転・砕土)の痕跡が見つかった。畜力プラウでなく、トラクタプラウによるものと考えられる。



サテライトNo.10 エルムトンネル地点
(楳文文化の木製道具)
楳文前期から後期にかけて継続する集落遺跡。埋没河川(旧河道)からは身材・わらじ・かんじきなど、多数の木製道具が発見された。



サテライトNo.11 K435遺跡馬場地点
(保存された竪穴住居址)
続縄文後半期の屋外炉址が発見されたほか、楳文文化の住居址の存在が確認され、現状のまま保存されている。



サテライトNo.12 第2農場倉庫地点
(川辺のキャンプ場)
調査区東側で見えられた埋没河川(旧河道)に面して、屋外炉址・焼土粒集中・炭化物集中が発見された。



サテライトNo.13
人文・社会科学総合教育研究棟地点
(キャンプ地から集落遺跡へ)
縄文晩期の季節的なキャンプ場から続縄文前半期の竪穴住居や土坑墓を伴う集落へと変遷する過程が明らかになった。



サテライトNo.14
付属図書館本館北東地点
(川辺に打ち込まれた木柱列)
出土した木柱列は、17世紀頃に作られた、川の流れをせき止めて魚を捕獲する定置漁撈施設であったと考えられる。



サテライトNo.15 弓道場地点
(焼失住居址)
楳文中期の竪穴住居址(10世紀頃)は、屋根や壁の木材が燃えて炭化した状態で発見された。住居内からは、炭化した種子が見つかった。



サテライトNo.16
工学部共用実験研究棟地点
(川辺のキャンプ場と集落遺跡)
続縄文後半期の屋外炉址とともに多くの北大式土器が発見されたほか、楳文前期の竪穴住居址も発掘されている。

■ 現代社会と遺跡とのつながり ～パブリックアーケオロジーの考え方～

現代社会において、考古学はどのような役割を果たすことができるのか？

そうした視点から、遺跡の調査・研究を行い、その成果を現代社会に積極的に還元し、また問いかけてゆくのがパブリックアーケオロジーです。

遺跡の「文化資源」化を考えたとき、誰が、誰のために、どのようにになすべきか、といった問いを常に考える必要があります。それが遺跡の見方、とらえ方、調査の方法にも大きく反映されてきます。

発掘調査報告書で学術的なデータを提供するだけでなく、次世代に遺跡を引き継ぐことの意義と可能性を意識し、さまざまな方法でその成果を発信し、新しい出会いと対話の空間、commonsを広げていく。今回の人類遺跡トレイルは、パブリックアーケオロジーのひとつの実践です。

■ 2009年度発掘調査速報

2009年4月20日から、南新川国際交流会館地点、北キャンパス基幹（道路）工事地点で遺跡の発掘調査が行われています。

調査では、縄文文化、弥生文化の遺構、土器や石器などの遺物が出土しています。

調査の成果は、現地説明会や調査室のホームページ（URLは下記参照）で随時、お知らせします。



▲K435遺跡 南新川国際交流会館地点発掘調査の様子

■ お知らせ

人類遺跡トレイルウォーク の開催について

深緑のキャンパスの中、実際に人類遺跡トレイルをたどって、北大構内の遺跡を体感してみませんか。

今回新たに設置された解説パネルをめくりながら、埋文トレイル、縄文トレイルのいずれかを散策します。所要時間は2時間半～3時間ほどです。

日時：平成21年7月4日（土）※小雨決行

集合：13時00分

出発：13時10分

解散：15時30分ごろ

集合場所：北海道大学 埋蔵文化財調査室前
（中央食堂向かい）

参加費：無料

申込み：7月1日（水）までに電話・ハガキ・ファックス
のいずれかで下記の連絡先までお申し込み下さい。

編集後記

本号では、今年3月に整備された「人類遺跡トレイル」について紹介しました。

初夏の北大キャンパスを、本号を片手にオリエンテーリング感覚で、解説パネルを探しながらサテライトをめぐるみてはいかがですか。

「遺跡のある景観」で足を止め、悠久の時の流れにしばし迷い込んでください。（大平）

北海道大学埋蔵文化財調査室ニュースレター 第6号

平成21（2009）年6月1日発行

発行：北海道大学埋蔵文化財調査室

〒060-0811 札幌市北区北11条西7丁目

TEL：011-706-2671 FAX：011-706-2094

e-mail：jun-ta@let.hokudai.ac.jp

URL：http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~r16749/maibun.html